

## トレンド5：多様なコミュニティが共存する社会

### 多様なコミュニティが共存する社会へ

#### 2050年には、コミュニティ間の交流は促進されるか？分断が深まるか？

2050年にかけて進展するデジタル技術は、コミュニティ間の交流を促進する方向にも、分断を深める方向にも作用することが予想される。デジタル空間が十分に発達し、物理的な距離や言語の壁を越えて、さまざまなコミュニティに属する人たちと交流できるようになれば、コミュニティ間の交流は促進されよう。また、そうしたデジタル空間の中で、誰もが教育を受けられるようになれば、コミュニティの枠を超えた人々の交流や相互理解が生まれるきっかけとなりうる。

一方で、デジタル技術は、フィルターバブルやエコーチェンバーといった現象（後述）を引き起こし、コミュニティ間のつながりを断ち、コミュニティの分断を深める方向にも作用しうる。また、デジタル空間の進展に伴い、個人間で富の格差が拡大すれば、それも社会を分断する原因となろう。

#### コミュニティの目的や特性ごとに交流促進／分断加速が変化

デジタル技術は、コミュニティ間の交流の促進と、分断の深化の双方向に寄与するため、コミュニティ間の交流が最終的に促進されるかどうかは、各コミュニティの特性や目的に依存しよう。例えば経済合理性や経済成長を追求する企業体、知的探求を主な目的とする学術機関などでは、コミュニティ内部の多様性が高い方がコミュニティの目標達成には望ましいため、コミュニティ間の交流が今よりもさらに活発になることが予想される。また、成長が主目的ではないものの、一定の収益を得て事業活動をしているNPOなども、多様性を求め、異属性の人々との交流が深まるだろう。

一方、同じ信条や理念を持つ人が集まる政治や宗教に関するコミュニティなどでは、コミュニティ間の分断が加速する一方で、コミュニティ内部の結束が強固なものになる可能性が高い。

### コミュニティ間の交流をもたらすもの：教育と多様性

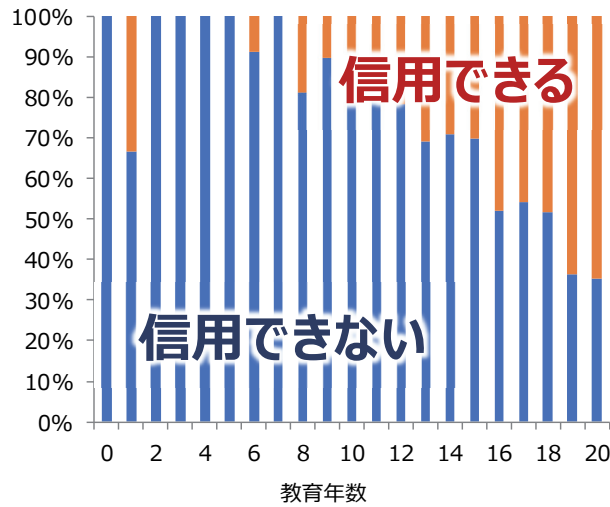
#### 多様なコミュニティの共存を実現する教育の進展

コミュニティ間の交流を促す効果が期待されるのが、教育における他者への信用の変化である。現在、前期中等教育の純就学率は、アフリカ（サブサハラ）で30%程度、南アジアでも40%程度にとどまる。今後、デジタル空間が高度に発達すれば、EdTechやMOOCsといったオンライン教育プラットフォームを通じて、現状中等・高等教育に手が届いていない人々でも十分な教育を享受する機会が生まれる。米シカゴ大学の調査によれば、「ほとんどの人を信用できるか？」との問いに「信用できる」と答える人の割合は、教育年数が延伸するほど増加する（図表I-6-1）。他者の信用割合の弾力性を計算すれば、1年間の教育年数の延伸は、約2.8%の他者の信用割合の増加をもたらす。こうしたデジタル空間を通じた教育の普及は、多様なコミュニティの共存を実現するために大きな役割を果たすだろう。

教育の重要度が増していく中で、教育が果たす役割が増していくことも予想される。これまでの教育では、①体系化された学術的・専門的知識の修得や、②健康な心身の獲得などが目的とされてきた。しかし、一部のコミュニティ間で分断の深まりが社会課題となる状況において、教育にはコミュニティ間の相互理解や情報共有を促す役割も求められる。そのため、教育の主眼は、「知識修得」のみならず「他者理解」にも置かれることとなる。

図表 I -6-1

**教育を受けた年数が長いほど他者を信用する**  
教育年数と他者への信用度合いの関係



注 1 : 2016 年のデータ。  
注 2 : 上図青部分は、「信用できない」もしくは「場合による」と回答した人の割合。  
出所 : シカゴ大学「General Social Survey」より三菱総合研究所作成

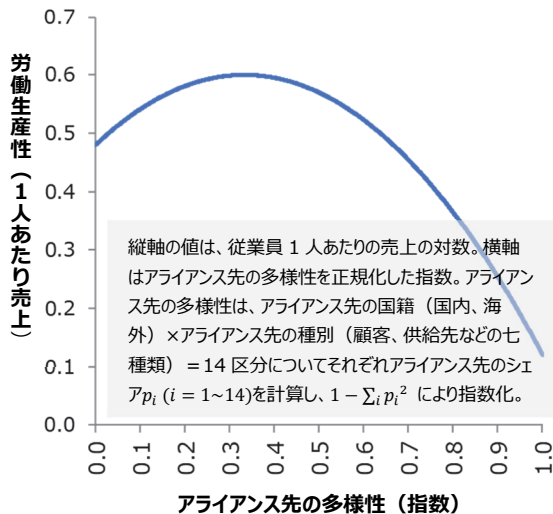
**成長への希求が多様性を高める**

企業などの主体による多様性と生産性との関係も注目される。図 I-6-2 に示すように、企業単位ではアライアンス先企業の属性が適度に多様である方が、労働生産性が高まるという関係が見られる。

また、図 I-6-3 に示すように、国家単位で見ても共生する民族や使用される言語において、適度な多様性を保持している国の方が、より高い経済成長を実現している。見方を変えれば、「豊

図表 I -6-2

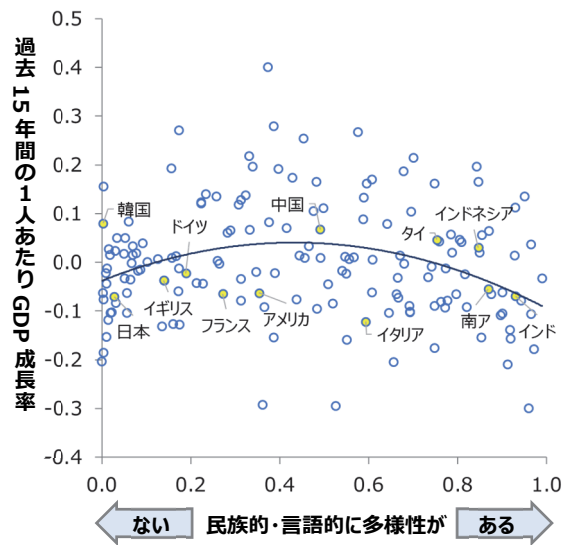
**企業レベルでは適度に多様な主体とアライアンスを結ぶことが生産性向上に繋がる**  
アライアンス先の多様性と労働生産性の関係



出所 : “Returns to alliance portfolio diversity : the relative effects of partner diversity on firm’s innovative performance and productivity” (Leeuw et. al., 2013)より三菱総合研究所作成

図表 I -6-3

**国レベルでも適度な多様性を持つことが経済成長に繋がる**  
民族的・言語的多様性と GDP 成長率の関係



注 : 縦軸の値は 2000 年の各国の 1 人当たり実質 GDP と人口で調整。推計にあたっては人口密度など他の関連するパラメタを合わせて重回帰を行い、他の要素による影響は排除している。  
出所 : “Ethnic Inequality” (Alesina et. al., 2016), World Bank より三菱総合研究所作成

かになりたい」という人間が持つ根源的な欲求こそが、マイクロ・マクロ両側面での多様性の保持を促し、コミュニティ間の交流を生み出す原動力となる。

## コミュニティ間の分断をもたらすもの：デジタル空間の広がり

### 価値観が同じ人が集まりやすいデジタル空間の広がり

デジタル空間の発達は、一般的には物理的な距離や言語の壁を取り払い、コミュニティ間の交流を促す方向に作用する。一方で、近年では分断を深める方向に働く効果が注目されている。例えば、すでに多くの検索エンジンや SNS で実装されている検索結果や表示内容のユーザー別の最適化は、ユーザーが見たい情報だけを表示させるため、アクセスする情報の偏りを生み出すことが知られている。最適化アルゴリズムによって生み出される情報の偏りはフィルターバブルと呼ばれる。また、情報の選別は、各ユーザーと考えの近いユーザーを表示したり、似通った意見ばかりを表示したりしてしまう。この結果、デジタル空間上に意見や思想が似た者同士が集う疑似的なコミュニティが形成される。

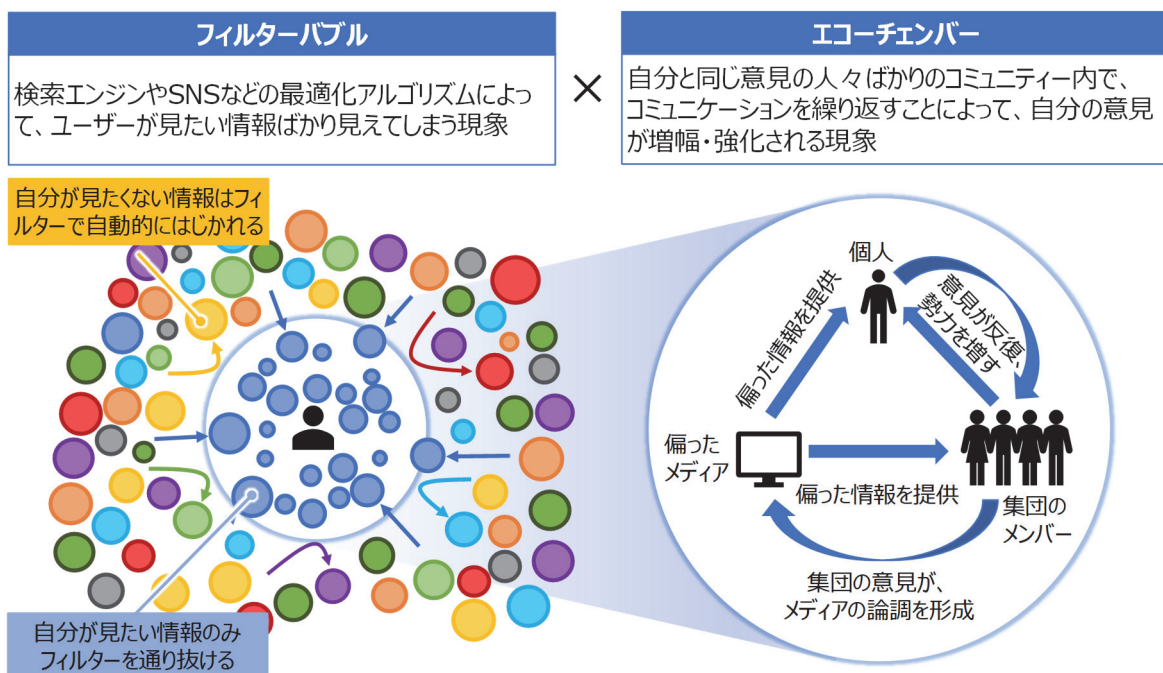
そうして形成されたコミュニティの内部では、似通った情報や意見のみがやり取りされるため、属するユーザーたちはあたかも自分の意見が完全に正しいかのように錯覚する。そして、同じコミュニティ内のメンバーとの意見の共鳴や、フィルターバブルによる偏った情報の提供によって、その意見はより強固かつ増幅されていく。このように自身と同じ意見の人々ばかりで形成されたコミュニティ内でコミュニケーションを繰り返すことで、その意見が強化されたり、意見の偏りが増幅されたりする現象をエコーチェンバーという。

フィルターバブルやエコーチェンバーといった現象がよく見られるデジタル空間のもとではコミュニティが分断を強め、意見を硬化させやすい。

図表 I -6-4

#### フィルターバブルとエコーチェンバーがコミュニティ間の分断を加速

デジタル空間で発生しうる二つの現象



出所：三菱総合研究所